

若者の発明光る

特許取得と大会入賞

三池工業高

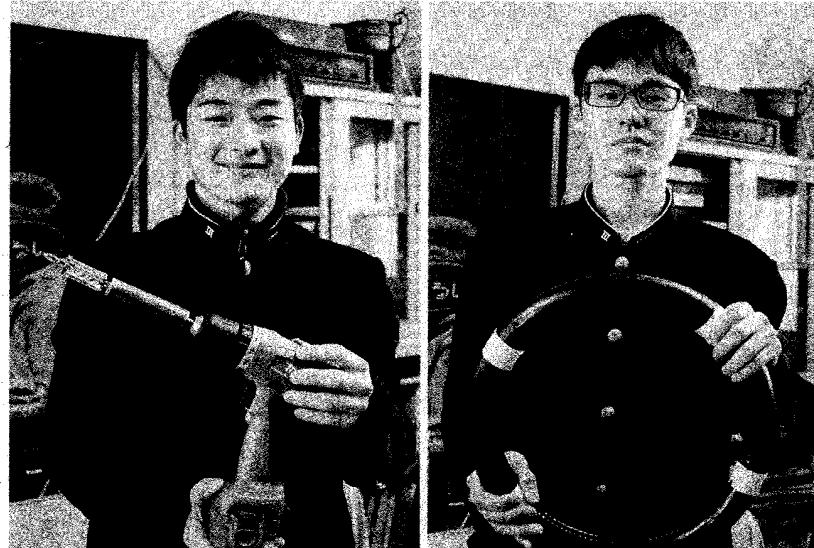
大牟田市上宮町の三池工業高校の情報電子科3年生の広松君(18)が車の盗難防止装置を発明し、特許を取得。電気科3年の岩下元稀君(18)も利便性を高めたドライバーを開発し、高校生技術アワードコンテスト全国大会で佳作入賞を果たした。

広松君が発明した「ハンドルキー型車両盗難防止装置」は車のハンドルに複数のタッチセンサーを配置。あらかじめ決めておいた順番どおりにセンサーに触ると

ハンドルロックが解除されるという。3年の課題研究の授業で、コンテストに向けて考えていたが、良いアイデアが思いつかず、放課後も一人で教室に残って考えを練りつづけた。思ついたのは12月

金属板をドライバーの回りに取り付け、ねじを吸着する。これまで磁石でねじをドライバーに吸着する製品はあったが、湾曲した金属板を取り付けることで、ねじを一方間に並んで吸着させることができ、電動ドライバーでも使用できる」と岩下君。4月からは関西電力で就職することが決まっており、「この経験はこれから仕事で役立つと思う」と希望に満ちた。今までも視点からものを見ることができるので、近にあった金属製のメジャーを金屬板として使い、作り上げた。同校の同コンテストでの入賞は6年連続、9回目となるという。

(矢野 大輔)



連射ドライバーを開発した岩下君

盗難防止装置を発明した広松君

昨年3月から特許申請し、装置の内容を練り直すなどして今年1月に特許が認定された。同校にとって2年連続、2回目の特許認定となる。

広松君は「認定を受けることができて本当に嬉しかった」と笑顔。装置については大手自動車メーカーの開発部も関心を持っているといい、「実用化されて自動車盗難の被害が無くなったらいいと思います」と話した。

電気科の岩下君が開発したのは、「連射ドライバー」。小さな磁石を湾曲した

2019年(平成31年)
2月23日
土曜日

大牟田荒尾版

有明新報
THE ARIAKE SHIMPO